

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K07781

研究課題名（和文）アドバンス・ケア・プランニング・eポートフォリオシステムの開発

研究課題名（英文）Development of Advance Care Planning e-Portfolio

研究代表者

平川 仁尚（Hirakawa, Yoshihisa）

名古屋大学・医学系研究科・招へい教員

研究者番号：00378168

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、質的分析支援ソフトとポートフォリオを活用した、アドバンス・ケア・プランニング・eポートフォリオシステム（ACP eポートフォリオシステム）の開発であった。高齢者のその人らしさを支援するためのACP支援力向上セミナーのオンラインプログラムを試作し、ACPIに積極的に取り組んでいる医療機関・居宅介護支援事業所の医師・看護師、介護・福祉関係者66名を対象にプログラムを実施することができた。研究期間終了後も引き続きACP eポートフォリオシステムの活用前後で、対象施設全体において、ACPの話し合い実施率、文書化率、ACPの内容の質の変化について聞き取り調査を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ACPIには、医療・介護・福祉の多職種が関わる必要がある。実際、米国を中心に、2015年以降ソーシャルワーカーのACPへの関与を期待する論文発表が増えているが、日本におけるACPの普及活動では、延命・救命処置の希望に関する事項（リビング・ウィル）が中心に据えられ、本人の価値観、人生観、死生観、ライフレビューなど「その人らしさ」に関わる部分にはあまり焦点が当てられてこなかった。こうした尊厳の根幹に関わる内容もACPの重要な項目の一つとして関係者により深く認識されるべきである。

研究成果の概要（英文）：This study was aimed to develop Advance Care Planning (ACP) e-Portfolio, which uses a qualitative analysis software. We developed an educational program for healthcare professionals who support dignity of older people, and conducted such programs targeting 66 healthcare professionals. We are currently analyzing the data obtained before and after the intervention: ACP discussion and documentation rate and content.

研究分野：高齢者医療（老年医学）

キーワード：終末期ケア ケアマネジャー 質的研究 教育プログラム インタビュー アドバンス・ケア・プランニング 高齢者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

高齢者を最期まで住み慣れた地域で支える仕組みとして、地域包括ケアシステムの整備が国家的な喫緊の課題となっている。そのシステムの基盤は、高齢者本人の自己決定の支援、つまりアドバンス・ケア・プランニング(ACP)である。ACPとは、認知症や脳卒中などによる意思決定能力低下に備えて本人・家族・医療・介護・福祉関係者等で予め終末期の対応や方針について話し合っておくことである。ACPが有効に機能すれば、患者は、もし自分に意思決定能力がなくなっても、自分が語ったこと、書き残したことから自分の意思が十分に尊重されたケアを受けることができる。

ACPでは、救命処置・延命治療や食事・入浴・排泄など日常生活における自己決定、価値観・人生観・死生観に関する事項が話し合われる。そのため、ACPには、医療・介護・福祉の多職種が関わる必要がある。さらに、がんの場合と比べて、認知症など非がんの場合は、生活支援ニーズが高く、経過が長く、その対象者数も圧倒的に多いため、ケアマネジャーやソーシャルワーカー、その他の介護・福祉関係者がACPに関わることが必然的に多くなる。実際、米国を中心に、2015年以降ソーシャルワーカーのACPへの関与を期待する論文発表が増えている。

これまでのACPの普及活動では、延命・救命処置の希望に関する事項(リビング・ウィル)が中心に据えられ、本人の価値観、人生観、死生観、ライフレビューなど「その人らしさ」に関わる部分にはあまり焦点が当てられてこなかった。こうした尊厳の根幹に関わる内容もACPの重要な項目の一つとして関係者により深く認識されるべきである。そうした「その人らしさ」のインタビューデータの分析には、質的分析が必要不可欠であるが、専門的トレーニングを受ける必要がある。多忙な医療・介護・福祉関係者がそうしたトレーニングを受ける時間を確保することは現実的ではないため、質的分析オンライン・プラットフォームがACPの普及には必要であると考えている。研究代表者のこれまでのACP教育・研究の経験から、介護・福祉関係者向けの質的分析支援には、視覚的な方法が適しており、ポートフォリオの活用が有効であるとの結論に至った。尚、ポートフォリオとは、主にデザイン領域で、被評価者が作成した作文、レポート、作品、活動の様子が分かる写真やVTRなどをファイルに入れて保存する方法である。総合的な学習の評価方法として、近年医学教育分野でも注目されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高齢者自身の自己決定を尊重し、周囲がそれを支える地域包括ケアシステムの実現に向けた、ACPのユニバーサルデザイン化への挑戦であり、既存の質的分析支援ソフトとポートフォリオを組み合わせた地域実装可能なアドバンス・ケア・プランニング・eポートフォリオシステムの開発をすることであった。

3. 研究の方法

令和2年度(初年度)

本研究の介入プログラム「高齢者のその人らしさを支援するためのACP支援力向上セミナー：インタビューからポートフォリオ制作まで」を次の要領で試作した。まず、研究チームで、研究代表者がこれまでの研究で収集した既存のACPに関するインタビューデータ3名分をサンプルデータとして、KH Coderを用いた質的分析を経験した。その結果を基に、国内外のACP関連の論文や書物のレビューを行いながら「その人らしさ」を引き出すための質問の項目と順番を検討し、インタビューガイドとポートフォリオサンプルを制作した。追加で、研究チームで、被験者として地域の高齢者15名を対象に実際にインタビューガイドとポートフォリオサンプルを用いてACPインタビューからポートフォリオ制作まで行い、被験者にはその流れ全般について感想を求めた。

また、その人らしさに焦点を当てたACPインタビューができるようになるための学習ニーズを把握するために、Zoom上で8名(医師、看護師、ケアマネジャー)の個別インタビューと8名のフォーカスグループインタビューを実施した(table1)。全てのインタビューはZoomを通じて録画(音)され、逐語録を作成し、質的内容分析を行った。質的内容分析では、KH coderにより、構造化された。研究チームで構造化のチェックとポートフォリオ制作を行い、インタビューイに対してメールにてポートフォリオを送付した。

Table 1 Characteristics of participants

Code	Profession	City	Gender	Age range	Other relevant information
Depth interview 1	Nurse	Urban Nagoya	Female	55–60	Head nurse with over twenty years of experience in practice of institutional care
Depth interview 2	Nurse	Urban Himeji	Female	55–60	Head nurse with over thirty years of experience in practice of home-visit care
Depth interview 3	Nurse	Rural Tokushima	Female	45–50	Public health nurse with over fifteen years of experience in practice of home-visit care
Depth interview 4	Care manager	Urban Akita	Female	40–45	Care manager with over fifteen years of experience in practice of home-visit care
Depth interview 5	Care manager	Urban Nagoya	Female	55–60	Care manager with over twenty years of experience in practice of home-visit care
Depth interview 6	Care manager	Urban Nagoya	Male	50–55	Care manager with over twenty years of experience in practice of institutional care
Depth interview 7	Care manager	Rural Nagoya	Female	50–55	Head care manager with over twenty years of experience in practice of home-visit care
Depth interview 8	Care manager	Rural Nagoya	Female	45–50	Head care manager with over twenty years of experience in practice of home-visit care
Focus group 1	Physician	Urban Akita	Male	55–60	University faculty member with over twenty years of experience in practice of primary palliative care
Focus group 2	Physician	Urban Akita	Male	55–60	Home-visit physician with twenty years of experience
Focus group 3	Physician	Urban Akita	Male	50–55	Home-visit physician with over twenty years of experience
Focus group 4	Physician	Rural Akita	Male	50–55	Primary care physician with over twenty years of experience in practice of both hospital and home-visit care
Focus group 5	Physician	Rural Tokyo	Male	25–30	Hospital physician with five years of clinical experience
Focus group 6	Nurse	Urban Akita	Female	30–35	Home-visit nurse with over ten years of clinical experience
Focus group 7	Care manager	Urban Akita	Female	40–45	Care manager with fifteen years of experience in practice of home-visit care
Focus group 8	Pharmacist	Urban Akita	Male	45–50	Community pharmacist with twenty years of clinical experience

令和3年度（2年目）

新型コロナ感染拡大の影響から対面で会議やワークショップの開催が不可能であったため、全てオンラインで令和2年度の成果をまとめ、研究チームで、「高齢者のその人らしさを支援するためのACP支援力向上セミナー：インタビューからポートフォリオ制作まで」のプログラムを試作した。被験者15名のインタビュー結果については、ACPポートフォリオ集としてまとめた。年度の後半には、名古屋の会場で、対面とオンラインによりプログラムを試験的に実施した。参加者は、6名であった（医師2名、看護師2名、ケアマネジャー1名、介護士1名）。

プログラムの概要は、演習としてインタビューガイドに沿った聴き取りとACPポートフォリオ作成、演習として事例を基にしたACPポートフォリオ作成、最後に振り返りであった（90分間）。

令和4年度（最終年度）

秋田県、宮城県、東京都、愛知県、京都府の4都府県から計67名の医療・介護・福祉関係者が本プログラムに参加した。1回のプログラムには複数人が参加し、ファシリテーションは研究代表者と研究分担者が行った。プログラム評価のため、終了後にフォーカスグループインタビューを行った。

また、本プログラムの地域実装を目指して、本プログラムの動画教材、ACPインタビューの上手な進め方ガイド、ACPポートフォリオ集を組み込んだオンライン・プラットフォーム「アドバンス・ケア・プランニング・eポートフォリオシステム」を秋田市在宅医療・介護連携センターのWebサイト上に構築した。そして、ACPに積極的に取り組んでいる医療機関・居宅介護支援事業所の医師・看護師、介護・福祉関係者を対象に、ACP eポートフォリオシステムを体験してもらった。対象者数は、合計で70名となった。ACP eポートフォリオシステムの活用前後で、対象施設全体において、ACPの話し合い実施率、文書化率、ACPの内容の質の変化について質的・量的に検証する。令和5年1月から研究期間終了（令和5年3月）までの間に、研究結果のまとめを行った。

4. 研究成果

令和2年度

質的分析の結果、その人らしさに焦点を当てたACPに不可欠な5つのテーマ（その人の自立や人生に焦点を当てる、その人の本当の気持ちや要望を明らかにする、他職種とその人の終末期の希望について共有する、その人の希望を医師に伝える、本人・家族・他職種間のコンフリクトを解消する）を抽出できた。

その結果を基に作成したインタビューガイドとポートフォリオ例を次に示した（図1）。

図 1) インタビューガイドとポートフォリオ例

\ すぐできる! /

ACP PORTFOLIO

『ACP (アドバンス・ケア・プランニング) ポートフォリオ』
作成ワークショップ

研修ガイド 編

作成日: 2021年9月16日 / 更新日: 2023年3月30日
企画・制作: 村谷つかさ 九州大学大学院 芸術工学研究院
医学監修: 平川 仁尚 名古屋大学大学院医学系研究科
ロゴデザインイラスト/DP: 坂本香織
発行元: 名古屋大学大学院医学系研究科 平川仁尚研究室
本研究は、JSPS科研費補助番号 JP20K07781 (研究代表: 平川仁尚) の助成を受けたものです。 ©2021-2023 Tsukasa Murayama/ Yoshinobu Hirakawa

インタビューガイド
[サンプル]

ACP
PORTFOLIO

ACP PORTFOLIO 山田 花子 (やまだ はなこ) さんのポートフォリオ 作成日: 2021/12/19 作成者: OOOO

人生の支えとなった言葉・考え方
人には良いところ、悪いところがあるもの、できるだけ良いところを見るよう交わられ、心がけてきた。人生には希望がある。悪い時もそれを受け入れて、良い方向へ気持ちを持つことが大事だと思う。

これからの夢・目標・避けたいこと
また近所を歩いて、お友達とおしゃべりたい。いつまでできるかわからないが、できれば住みながらの家ですずっと暮らしたいが、いつまでできるかな。子どもや孫に連絡はかけたくないと思っている。

子ども・学生時代
母親譲りで、小さい頃から好奇心旺盛。5人兄弟の三番目で、そんなに裕福ではなかったが、母が姉妹もみんな高気圧でかかせてくれた。スポーツが好きで中学高校では、バレーボールをしていた。

健康について
今、82歳だが、3年前に転んで、膝を痛めてからハビロに通っている。歩くことが好きだが、今はできなくて辛い。ご飯は3食しっかり食べるようにしている。

仕事・社会人
仕事では、品質管理業務を徹底的にやった。地元では大手の会社だった。親戚に勧められて、お見合い結婚。22歳の時で、夫は27歳だった。

お気に入りのニックネーム
はなちゃん
母が呼んでくれており、お友達からも呼ばれていた。

たよる人
息子が近くに住んでいるし、嫁いだ長女も月に一度くらいは訪ねてくれる。

家族との思い出
夫は優しい人で、よく旅行に連れて行ってくれた。子どもの影響も受けて、普段は親しいが、緊急とどうなるかは分からない。90代後半で病気になり、5年くらい介護して見送った。

友達・地域との交流
高校時代からのお友達が近い区域に住んでおり、週に1度は集まっていた。ママさん/レーのOB会のお友達とは、年に何回か食事に行ったり旅行に行ったりしてきた。

趣味・生きがい
美味しいものを作ることが好き。孫が小さいときはいろいろと作ってあげていたが、今はできていない。お菓子は結婚した頃から習っており、介護の時期にできなくなったが、今もお花や植物が好き。

©2021-2023 Tsukasa Murayama/ Yoshinobu Hirakawa 11

インタビューガイド
[インタビューの順番]

ACP
PORTFOLIO

ACP PORTFOLIO お名前 (読み仮名) さんのポートフォリオ 作成日: / / 作成者: / /

1 **人生の支えとなった言葉・考え方**
これまでの人生で支えになってきた言葉や考え方。ご自身のモットー、座右の銘、など。

11 **これからの夢・目標・避けたいこと**
これからの夢、やりたいこと、なくては困ること、目標。これだけは嫌だ(避けたい)と思うこと、など。

3 **子ども・学生時代**
子どもの頃や学生時代の思い出。好きな遊びや勉強、音楽、映画など。

9 **健康について**
健康面で気になること、気をつけていること、心配、自慢、など。

4 **仕事・社会人**
大人になって、仕事や家庭などで頑張ってきたこと、大変だったこと、達成したこと、やりがいを感じていたこと、など。

2 **お気に入りのニックネーム**
お気に入りの写真を貼り付ける (現在の写真でなくても良い)

8 **たよる人**
たよりにしている人。
例) 連れ合い、同居人、友人、ケアマネジャーなど専門職の人、など。

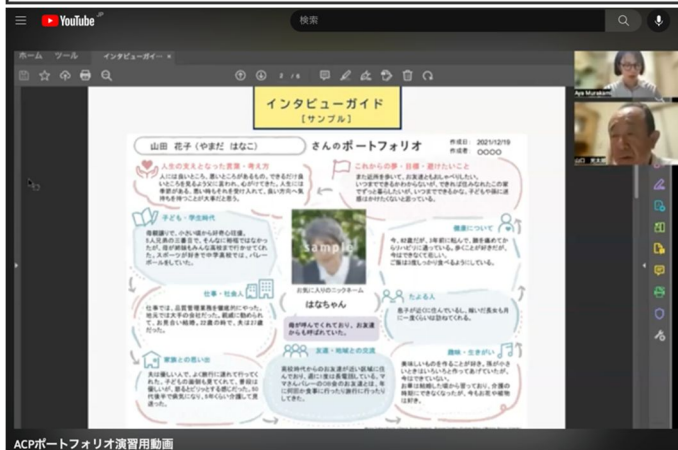
5 **家族との思い出**
家族との思い出 (子ども頃、成人後など)。苦労、よろこび、忘れられないこと、など。

6 **ニックネームの由来、誰から呼ばれていたのか、など。**

7 **趣味・生きがい**
趣味や得意なこと、好きなこと、生きがい、好きな食べ物、場所、など。

©2021-2023 Tsukasa Murayama/ Yoshinobu Hirakawa 15

令和3年度
プログラムの試作版の説明用資料(教材)として、ACP ポートフォリオ作成ワークショップ 研修ガイド編、ACP ポートフォリオ作成ワークショップワークシート編、ACP ポートフォリオ演習用動画を制作した。



令和4年度

(1) プログラム修了者の終了後の感想

- ・実際に活用していきたい。
- ・認知症の方も答えられる内容だと思いました。
- ・意外と短い時間でも作成できることに驚いた。
- ・ポートフォリオ自体は使いやすいと思う。
- ・意思確認のツールとして活用できると感じた。
- ・実際に何をどのように本人とお話しするかそのためのツールの理解と活用方法が学べた。
- ・アセスメントシートより堅苦しくない ACP ポートフォリオは話の幅を広げるツールとして利用出来そうでよい。
- ・何を聞き取り、何に繋げていけるのかわからないまま質問していたから、1 番最後の大事な質問まで辿り着けなかった。
- ・実際に使ってみなければわからないことがあると思った。
- ・演習することで具体的な活用場面をイメージすることができる。
- ・新たなツールに巡り合えてうれしい。
- ・インタビューの順番を考えるのが難しかった。
- ・取り組みやすい内容であったからよいと思う。
- ・初対面の方であったが、その方の大切なことや人生の価値観を共有でき密なコミュニケーションをとることができた。
- ・参加者の意見も様々で使用法の参考になった。
- ・ポートフォリオについて学ぶのが初めてだった。
- ・服薬指導の際に、患者様の想いや考えなどを聞き取る参考にしていきたいと思います。
- ・仕事上で活用できると感じた。

(2) 秋田の参加者の感想 (実際に地域でやってみた時の感想。取りまとめ役の人の意見も含めて)

- ・実際 ACP を活用することはなかったのですが、今後活用する事で仕事にも活かそうです。
- ・難しく考えていたが、このやり方なら自分でも出来そうだと感じた。
- ・時間を区切って情報を得ることも大切だと思った。
- ・情報収集のツールとして使いしていきたい。
- ・普段から価値観に触れる会話を意識しようと思うきっかけになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Muraya T, Akagawa Y, Andoh H, Chiang C, Hirakawa Y.	4. 巻 16
2. 論文標題 Improving person-centered advance care planning conversation with older people: a qualitative study of core components perceived by healthcare professionals.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Rural Medicine	6. 最初と最後の頁 222-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2185/jrm.2021-022	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村谷つかさ、平川仁尚.	4. 巻 29
2. 論文標題 アドバンス・ケア・プランニングにおける高齢者の「その人らしさ」を支える視点.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 173-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村谷つかさ、平川仁尚	4. 巻 22
2. 論文標題 福祉の現場から 高齢者の「その人らしさ」を支えるアドバンス・ケア・プランニングのデザインに向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安藤 秀明 (ando hideaki) (00323147)	秋田大学・医学系研究科・教授 (11401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	赤川 祐子 (akagawa yuko) (10770117)	秋田大学・医学系研究科・助教 (11401)	
研究 分 担 者	江 啓発 (koh keihatsu) (20713887)	名古屋大学・医学系研究科・講師 (23903)	
研究 分 担 者	村谷 つかさ (muraya tsukasa) (30834428)	九州大学・芸術工学研究院・助教 (37117)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関